

道輪口説

本調子

工	五
七	八
四	七
〇	五
工	五
尺	五
合	四
〇	四

フイ	トウ
四	〇
四	タ
乙	ビ
四	サ
上	カ
四	キ
乙	バ
四	フイ
〇	トウ
四	タ
乙	ビ

ウ	トル
四	上
四	四
合	工
五	ユ
七	ヌ
五	ナ
工	カ
尺	ヌ
工	ナ
四	レ

合	五
七	八
四	七
〇	五
工	五
尺	五
合	工
四	四
〇	ウ

ム	キ
四	乙
シ	四
ル	上
ミ	四
ヌ	乙
ア	四
ワ	〇
リ	尺
ハ	上
ガ	四
	上

ナ	ヤ
尺	工
〇	尺
七	〇
ス	七
ス	〇
ワ	五
〇	工
尺	尺
工	工

ム	スイ
五	工
尺	尺
上	上
老	デ
四	イ
乙	カ
四	タ
五	ニ
七	ウ
五	ニ
工	ウ

チ	カ
尺	工
カ	四
キ	合
五	七
八	四
四	七
〇	五
工	五
尺	五
工	尺

四	合
〇	ヤ
四	ツイ
乙	リ
四	イン
上	デ
四	タル
乙	ル
四	ス
〇	スイ
四	ガ

乙	タ
四	ク
上	トウ
四	バ
合	ン
工	イ
五	マ
七	ニ
五	フイ
工	チ
尺	カ
工	カ

四	キ
合	五
七	八
四	七
〇	五
工	五
尺	五
合	工
四	四
合	合

〇	シ
四	マ
乙	ヌ
四	シ
上	マ
四	ジ
乙	マ
四	サ
〇	トウ
四	ヌ
乙	サ
四	サ

道輪口説

本調子

2/3

上	トウ
四	ザ
合	トウ
工	
五	ミ
七	グ
五	リ
工	ミ
尺	グ
工	リ
四	テイ
合	

五	
七	
八	
四	ニ
七	ン
〇	
四	

乙	ヂョウ
四	ケ
上	ン
四	ショウ
乙	リ
四	
〇	フ
四	トウ
乙	キ
四	ケ
上	ン
四	ショウ

合	リ
工	ニ
五	ン
七	ヂョウ
五	ヌ
工	カ
尺	ズイ
工	カ
四	ズイ
合	
五	
七	

八	
四	
七	
〇	ウ
五	チ
工	リ
四	ク
合	
〇	
五	
工	
五	
尺	

上	ブ
四	シ
乙	ニ
四	
〇	ワ
四	カ
乙	シュ
四	ニ
上	ン
四	ヂョウ
合	
工	ウン

五	マ
七	ヌ
五	キ
工	
尺	ブ
工	トウ
四	キ
合	
五	
七	
八	
四	
七	

〇	
五	
工	
五	
尺	
工	
四	クリン
合	
〇	ディ
四	
乙	
四	ワ
上	ラ
四	

乙	ビ
四	
〇	ナ
四	リ
乙	ク
四	ツイ
上	ヅイ
四	ミ
合	ヤ
工	ホ
五	ロ
七	ロ

五	ン
工	ホ
尺	ロ
工	ロ
合	ン
工	ホ
五	ロ
七	ホ
五	ロ
工	
尺	ホ
工	ヲツ

四	ト
合	
五	
七	
八	
四	
七	
〇	
五	
工	
五	
尺	
工	
四	
合	

一、一度栄えば一度衰ふ世の中の習
思ひ知る身のあはれ果敢なや
裾は結んで肩に打ち掛け
やつれ出たる姿言葉も今に引きかへ
島の島々里の里々巡りめぐりて
人形買ひんしやうれ仏買ひんしやう
れ人形の数々
起上り小法師に若衆人形馬乗仏
これ見で童鳴子鼓や
ほろろんほろろんほろほろほつと

二、空も長月はじめ頃かや四方の紅葉を
そめる時雨にぬれて男鹿の
なくもさびしき折に告げくる
雁の初音に心うかれてともにうちつ
れ
出る野原の桔梗苳萱萩の錦を
きてもみよとや招く尾花が袖の夕風
吹くも身にしむ夕日入江の海士のこ
ろもや
さおのしづくに袖をぬらして波路は
るかに
沖に漕ぎ出て月は東の山の木の間に
今ぞほのめく